

mamacha music column

Najki's Eye

vol.4 FOLKS



NAIKI AKIRA
内記 章

1953年 東京生まれ。音楽ジャーナリスト。小学1年の時、父親の転勤で札幌へ。札幌北高、日大卒業後芸能プロダクションを経て1976年より、札幌で音楽業界紙の記者となる。1982年、オリコン入社、札幌支局長勤務の後、2001年より東京本社勤務。広報企画部長、執行役員歴任の後、2005年同社を退社。2006年札幌でオフィス・ナイキを設立。音楽ジャーナリストとして、新聞、雑誌連載を始め、テレビ、ラジオへのレギュラー出演や、音楽専門学校講師のほか、オーディション、コンテスト等の審査員、各種コーディネイトやプロモーション等で幅広く活躍中。

〈オフィスナイキ ホームページ〉
<http://office-naiki.com/>

著書



「北の音楽戦士たち」
(中西出版)

北の「音楽業界」今、昔と北の音楽戦士たち27人。豊かな土壌で実った北の音楽事情とは。

今月の一枚



「SNOWTOWN」

FOLKS

(キューン 2015年2月25日発売)

人は心萎えている時やリラックスしたい時、あるいは癒されたい時に心地良い音を求める。そんなときにぴったりなのがFOLKSだ。聞いた瞬間、淡い水彩画の中に放り込まれた様に、透明感あふれる優しい音に包まれる。ロックなのに尖ってない。洋楽っぽいのに詞がはつきり聞こえる。エレクトロ、ポップ、ロック、ダンス、色んなエッセンスが嗅ぎとれるが、浮遊感のある温かなサウンドの中、ボーカルの声が繊細でいてしっかりとした世界を描き出す。

彼らは札幌のベッドタウン、恵庭市の新興住宅地「恵み野」在住の幼なじみ五人組。2014年にメジャーデビューを果たすが、注目度が上がり道外でのライブやツアーも増えてきた今でも、生活拠点を変えることなく活動の軸足を北海道に置いている。

そのことが作品に良い方向で反映されていると思われるのが、2月25日発売のセカンド・ミニアルバム「SNOWTOWN」である。リード曲の「冬の向日葵」からは北海道の冬景色がさらさらこぼれてくる。アルバム全体のトーンが冬なのに冷たくない。空から舞い落ちる雪や流れて行く風のようにさわやかでクリアなサウンドが、いつまでも耳に心地良く残り、立ち上る残像は淡い水彩画なのに鮮明だ。

心が萎えたりささくれたりした時だけでなく、およそどんな時であれ、彼らのサウンドに包まれる心地良さは、自分を癒したりリラックスさせたりする効果抜群だ。ちらちら見え隠れする、実験的なサウンドでさえ、北海道の風景を思い起こさせる一つのファクターにしか思えない。

「浸っていたい」というのが正解だろう。